

教育委員会臨時会議事録

会議名 教育委員会臨時会
開催日 令和2年7月27日（月）午後1時30分～午後4時35分
開催場所 総合教育研修センター
出席者 高須教育長、藤田教育長職務代理者、玉井委員、真野委員、坂本委員、秋元委員

事務局等出席者

野呂教育監、山口教育指導課長、清水総合教育研修センター課長、平野教育指導課係長、坂本教育政策総務課係長、坂口（教育政策総務課担当）

○高須教育長

ただ今から、中学校教科書採択のための教育委員会臨時会を始めさせていただきます。

本日の案件は、議決事項が1件でございます。

本日の議案第26号「令和3年度使用中学校教科用図書の採択について」を議題といたします。

本日の署名人は、秋元委員にお願いいたします。

それでは、資料1ページ、議案第26号「令和3年度使用中学校教科用図書の採択について」を議題といたします。

事務局から説明をお願いいたします。

はい、山口課長

○山口教育指導課長

ただ今御上程いただきました、議案第26号、令和3年度使用中学校教科用図書の採択について、令和3年度使用中学校教科用図書の採択を行いたく、教育委員会の議決を求めるものでございます。

提案理由といたしまして、令和3年度使用中学校教科用図書の採択のためでございます。

以上でございます。

○高須教育長

それでは、これから協議を行うわけですが、本日協議を行う教科書は、御存じのとおり、教科の主たる教材として使用義務があるものであり、学校教育において、極めて重要な役割を果たしております。

教科書検定制度に基づき、種目ごとに数種類発行されている中から、教科書を採択するわけですが、慎重・適正かつ公正に協議を進めてまいりたいと思いますので、よ

ろしくお願いいたします。

さて、採択にあたりまして、我々教育委員会は6月下旬に見本本の全てについて、担当指導主事と調査研究を行いました。その後、見本本をお預かりし、大阪府の選定資料等を参考にしながら、互いに疑問点や意見を出し合い、勉強してまいりました。その後、選定委員による答申の報告を受け、各委員がそれぞれの考えを深めてまいりました。

このような、これまでの協議や、各自の学習をもとに、本日は各種目1社の教科書を選んでまいりたいと思います。

それでは、協議を行っていきたいと思います。ただし、教科書は全てで16種類あり、種目の中には見本本の発行者が多い種目もございます。見本本の発行者が多い種目につきましては、ある程度に絞って最終的に1社を採択したいと思いますが、いかがでしょうか。

はい、藤田教育長職務代理者。

○藤田教育長職務代理者

今、教育長が言われたように、発行者が多い種目につきましては、数社に絞って、最終的に1社を採択する方法でよいと思います。

○真野委員

私もそれでよいと思います。

○坂本委員

内容について、まだ不明な点は、その都度御質問させていただいてよろしいでしょうか。

○高須教育長

本日は、調査員の長でもある、校長先生・教頭先生にも来ていただいております。必要であれば、事務局や調査員にも質問させていただいて結構です。

それでは、本日の協議で最終的に本市の子供たちに一番適している教科書を採択してまいりたいと思います。

なお、協議に入る前に、教科書の発行者名を略称で統一させていただきます。

東京書籍は東書、大日本図書は大日本、教育図書は教図、開隆堂は開隆堂、学校図書は学図、三省堂は三省堂、教育出版は教出、教育芸術社は教芸、光村図書は光村、帝国書院は帝国、大修館は大修館、啓林館は啓林館、山川出版は山川、数研出版は数研、日本文教出版は日文、学研教育みらいは学研、自由社は自由社、育鵬社は育鵬社、学び舎は学び舎、廣済堂あかつきはあかつき、日本教科書は日科と呼称することとします。よろしくお願いいたします。

それでは、種目「国語」について、協議してまいりたいと思います。現行は光村図書を使用しております。発行者は全部で4社です。

各観点について、各社の特色等、御意見をいただきながら、検討を進めていきたいと思っております。

まず、目標・内容の取扱いについてはいかがでしょうか。

はい、藤田教育長職務代理者。

○藤田教育長職務代理者

各社、今回新設された情報の扱い方について特徴がありました。

東書では、「学びの扉」において、教出では、各学年で複数の箇所を設定された「メディアと表現」の単元で、光村では、「思考のレッスン」や「情報整理のレッスン」において全体を通じて学べるようになっていました。

また、三省堂では「情報に関連づける」という大単元を各学年に設定していました。

○高須教育長

人権の取扱いについては各社どうでしょうか。

はい、坂本委員。

○坂本委員

各社とも、戦争や平和、自然環境問題、多様性などSDGsとも関連させた教材が取り上げられていました。

○玉井委員

東書では、共感する心を養うドキュメンタリーなどの教材が扱われ、光村では、文学的文章で生命を尊重することができる教材などが扱われているのが印象に残りました。

○高須教育長

内容の程度についてはいかがでしょうか。

はい、真野委員。

○真野委員

各社とも、生徒にとって興味・関心のある題材が扱われており、東書では、働き方について考える題材が、三省堂では、これからの生き方について、教出では、生きることの意味を考える題材を、光村においては、3年生で、これまでを振り返るとともにこれからの生き方について語り合う題材が取り上げられていました。

○秋元委員

教出と、光村は、単元の間四季をそれぞれ取り上げ、日本の季節感を大事にしています。

○坂本委員

古典教材について、東書と三省堂では、色鮮やかなカラーの折込資料によって、興味と学習意欲が高まるようになっており、光村では、古典教材と書く活動を結び付ける課題設定がされており、工夫されていました。

○高須教育長

次に、各社の「組織・配列」についていかがでしょうか。

はい、玉井委員。

○玉井委員

東書では、各学年で「他教科で学ぶ漢字」のコーナーが設けられており、三省堂では、理科や外国語の学習内容と関連付けられた題材を扱っており、教科横断的な視点をもつことができます。

○真野委員

教出では、3学年ともにSDGsについて扱った「持続可能な未来を創るために」の単元が設定されており、各教材がどの目標と関連しているかを示していました。

○藤田教育長職務代理人

光村では、「思考の地図」が巻頭に示されています。課題を解決したり、考えを深めたりするための方法が図や挿絵を交えて示されており、巻頭に思考の方法を提示しているところが印象的でした。

○高須教育長

続いて創意工夫はいかがでしょう。

はい、秋元委員。

○秋元委員

三省堂では、別の教材で、文章を読むポイントを学んだ後、本文を読み、学びを振り返るといった活動が取り扱われております。光村では、根拠となる情報を集め、説得力のある構成を考え、スピーチを行う活動が取り扱われていました。

○坂本委員

教出では、マンガを用いて物語を表現するなど生徒が「書くこと」に興味を持つことができるように工夫がされていました。

○藤田教育長職務代理人

光村では「聞き上手になろう」で、聞き方の工夫が掲載されていて、傾聴の技術を学ぶことができるようになっていました。

○高須教育長

補充的な学習・発展的な学習についてはいかがでしょう。

はい、藤田教育長職務代理人。

○藤田教育長職務代理人

各社とも、巻頭には、教科書の構成や身に付けたい力が示されており、何を学ぶかを見通せる工夫がされています。言葉の力をつけるということを意識されているのがよくわかりました。

○玉井委員

紹介図書については、東書が、最も紹介している冊数が多かったです。教出では、「自然／環境／科学」をはじめとして様々なテーマ別に多様な本が、單元ごとに紹介されています。

○真野委員

光村では、高等学校で学ぶ古典や漢文の名作の中から名句・名言を幅広く紹介し、

高等学校へ円滑な接続がされるように工夫されていました。

○高須教育長

そろそろまとめていきたいと思います。全体的に見て、いかがでしょうか。

はい、藤田教育長職務代理者。

○藤田教育長職務代理者

学習指導要領の改訂では、学習過程の明確化が重視されています。活動を通じてどのような資質・能力を育成するのが明確になっている必要があります。どの教科書も、国語科によって何を学ぶかを見通せる工夫があります。ただ、子供たちが主体的に学ぶことができるよう、毎回同じ流れで生徒にとって学びやすいという点で考えると、東書と光村が良いのではないのでしょうか。

○秋元委員

東書も良いと思いますが、私は光村が良いと思います。

光村は、今、藤田委員のお話にもあった学習の過程について、見通しを持ち、とらえ、読みを深め、考えを持ち、振り返るという具体的な段階が示されており、授業展開がしやすく、丁寧だと思います。指導技術によらずどの教員でも指導しやすく、教員の指導支援にもなるのではないのでしょうか。

○坂本委員

今回の学習指導要領の改訂によって新設された情報の取扱いにおいて、三省堂と光村の2社が特徴的に感じました。

三省堂は「情報に関係づける」という大単元で扱っており、光村においては、情報社会を生きる、思考のレッスン、情報整理のレッスンなどにおいて扱われ、情報を可視化したり、情報を整理したりする力を効果的に育成できるように工夫されていました。

○玉井委員

光村では、「聞く・話す」「書くこと」で学習したことを日常生活や将来使えるように具体的な場面を「つなぐ」という項目において示しているのが分かりやすく、総合的には光村がふさわしいのではないかと思います。

○真野委員

私も光村が良いと思います。文学教材を中心として、思考を広げ、深く考えさせるような教材を集めていると思います。

○高須教育長

各委員の意見を聞きますと、光村という声が多かったように思います。国語の教科書は光村を採択するという事で御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○高須教育長

御異議なしと認めます。よって国語は、光村図書を採択することに決めます。

次に、種目「書写」について、協議してまいりたいと思います。現行は東京書籍を

使用しております。発行者は全部で4社です。

皆さんの御意見をお聞かせください。

はい、真野委員。

○真野委員

書写においては、毛筆で学んだことを、硬筆に活かすことが大切になるのですが、東書と教出は、硬筆文字から学びスタートさせ、毛筆に取り組み、毛筆での学びを硬筆に生かすことができるように工夫されていました。

○秋元委員

光村は、硬筆練習帳「書写ブック」が別冊としてついていて、指導がしやすいと感じました。

○藤田教育長職務代理者

各社硬筆の指導の際には、鉛筆の持ち方を掲載しているのですが、三省堂は、鉛筆の「望ましくない持ち方」についても掲載していました。

小学校では1年から丁寧に教えていますが、学年が上がると、持ち方が崩れてしまい、同時に書体が崩れてしまうので、あえて中学1年でも取り上げ、もう一度きちんと指導できるよう、配慮されていて素晴らしいと思いました。

○玉井委員

配慮という点では、各社とも、すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいようにフォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色などが配慮されているのですが、特に、東書と教出では、利き手によって用具の置き方を変えてもよいという記載があり、利き手にも配慮しているなど感じました。

○坂本委員

毛筆指導では、東書と三省堂では、左のページに、教出では、右のページに手本が示されており、基本的に見開きで、手本とポイントがまとめられており、指導がしやすいように思いました。

光村では、見開きに1つか2つの教材の手本が示されていて、手本の前のページに学習の進め方が配置されています。教科書の大きさがB5判となっていて、横開きの教科書を縦に置くと、半紙原寸大の見本となっていて、扱いやすいのではないかと感じました。

○高須教育長

硬筆、毛筆については、様々配慮がありますが、「楷書」「行書」の指導についてはどうでしょうか。

はい、真野委員。

○真野委員

各社とも、「楷書」については、基本の点画（てんかく）の書き方と筆使いを、朱書き等を用いて、分かりやすく示しています。

特に、東書と光村では、筆圧をオノマトペで表示するなど、習得しやすいように工

夫されているのが良いと思います。

○秋元委員

「行書」については、各社とも、身の回りの場面を取り上げながら書くポイントが段階を経て、学べるよう工夫されています。

東書と教出は、身の回りの題材をより多く取り入れていて、参考になりますね。光村は、書く速さを比べる活動を取り上げているのが、印象的でした。

○玉井委員

目的や必要に応じて「楷書」や「行書」を選ぶことについて、東書、三省堂、光村ではイラストを、教出では写真を用いて、身近な場면을視覚的に分かりやすく示し、考えたり話し合ったりする活動が設けられています。

○坂本委員

各社とも、文字にまつわる「コラム」等が掲載されていて、日常的に生かすという観点に加え、文字文化を継承していくことにつながるよう工夫されていました。

特に、仕事と関連させて、取り扱っている東書の「仕事の中の手書き文字」や、三省堂の「文字に関わる仕事」については、キャリア教育の観点からも大切だと思いました。

○藤田教育長職務代理者

東書と光村は、「常用漢字表」に加え、「人名漢字表」が楷書と行書で示されていて、名前を書く際にも、行書を活用できるよう工夫されていました。

学習指導要領においては、日常的に生かすことができる書写の能力を育成することが求められていますので、とても良い工夫だと思いました。

○高須教育長

生徒の学びにつながる観点については、いかがでしょうか。

はい、玉井委員。

○玉井委員

各社とも、学ぶポイントを示しているのですが、東書は、「書写のかぎ」をインデックスにして掲載し既習事項の関連を示しているのです。新しく学習する際に、これまでに学んだことが活用しやすい工夫が良いと思います。

○真野委員

教科書全体のページ数については、光村が最も多く、豊富な内容を取り扱っていると思います。ただ、一方で、「書写」の限られた時間数の中で十分活用していくことは、大変かもしれません。

○藤田教育長職務代理者

学習指導要領にのっとった主体的・対話的で深い学びを意識して、振り返りにも話し合いを指導内容に入れている点からすると、東書が良いと思います。学習したことを身の回りのことや、どのような場面で生かせるかを話し合う言語活動に繋げている工夫は、他社にはなく、優れていると感じます。

○坂本委員

東書は、他社にはない、振り返りで話し合う活動を取り入れている点が良いですね。

○秋元委員

私は、光村も良いと思っていましたが、皆さんの意見を聞いて、話し合いを取り入れた丁寧な振り返りを意識されている東書は、生徒の学びを広げていくという観点からみても、良いように感じます。

○高須教育長

皆さんの意見を総合すると、東書という御意見のようですので、書写の教科書は東書を採用するというご意見で御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○高須教育長

御異議なしと認めます。よって書写は、東京書籍を採用することに決めます。

次に、種目「地理」について、協議してまいりたいと思います。現行は帝国書院を使用しております。発行者は全部で4社です。

皆さん御覧になってどうだったか、御意見をお願いいたします。

はい、玉井委員。

○玉井委員

どの教科書も写真、挿絵、図、表などの資料について見やすく、比較しやすいよう配置され、生徒の興味・関心を引き出す内容になっていると思います。

○藤田教育長職務代理者

確かに、習った場所へ実際に行ってみたくなる教科書だと思いました。

興味・関心も大切にしながらも、地域の諸事情や地理的な特色についての理解を促し、地理に関する様々な情報を調べまとめるための内容も取り扱われていました。

○真野委員

理解を促すという点では、どの教科書も地域の人が登場し語りかけるコーナーやキャラクターの発言などもあり、生徒の思考の流れも作りやすかったです。

○坂本委員

生徒にとって難しい言葉が出てくると、思考の流れが止まってしまうこともあるかもしれません。

教出と帝国では、本文の語句や内容に対する解説も取り扱われており、生徒の思考の流れを作る助けになると感じました。

○高須教育長

学習を進めていく上で、思考の流れも大切ですが、内容について横断的な視点を持つことも大切だと思います。

他分野や他教科、小学校で学習した内容との関わりについてはいかがでしょうか。

はい、藤田教育長職務代理者。

○藤田教育長職務代理者

教出は、他分野との関わりがある内容が、見開きの右下の「関連」に示されています。帝国、日文では、他分野に加え、小学校の学習とのかかわりについても、ページの中で示されていました。

ページに具体的な関連する学習内容が示されているのは、今学んでいる内容とどのような学習が関わっているのか意識しやすいと思いました。

○秋元委員

東書は他分野や他教科とのかかわりが、マークで示されているので、どの資料が関わっているのかが分かりやすいと思いました。

○高須教育長

学習指導要領においては前文及び総則において、「持続可能な社会の創り手」の育成があげられており、各教科においても、関連する内容が盛り込まれていますが、この点については地理ではいかがでしょうか。

はい、真野委員。

○真野委員

どの教科書もSDGsについて取り上げ、主体的に現代の世界や日本の課題を読み解いたり、追及したりする学習展開になるような工夫がされています。

○玉井委員

SDGsについて、日文では「日本の諸地域」の学習のまとめとして取り上げ、東書では、様々な学習の中で関連付けています。教出と帝国では、冒頭でSDGsについて取り上げています。

最初に、全体の意義を丁寧に説明されているのは、良いと思いました。

○坂本委員

帝国では、「日本の諸地域」の中でも地方ごとに、SDGsを意識した特設ページ「地域の在り方を考える」があります。冒頭だけでなく、それぞれの地域の学習の中でも生徒が意識する場面がたくさんあると感じました。

○高須教育長

各社とも特色がありますね。

では、人権の取扱いについて御意見をいただきたいと思います。

はい、秋元委員。

○秋元委員

どの出版社も、文章、写真、挿絵、図、資料など人権尊重の視点に立って、配慮されています。

また、カラーユニバーサルデザインが採用されているとともにフォントやレイアウトなど配慮されています。

○藤田教育長職務代理者

ユニバーサルデザインへの配慮とともに、世界の多様な文化の尊重の観点も大切だと思います。

東書では、「地理にアクセス」で地域の課題や文化について、教出では、「地理の窓」で民族や歴史的背景について、帝国では「未来に向けて共生」で諸地域の多様な価値観や文化の共生をはかる人々の姿について、日文では、「地理+α」で他国の尊重やさまざまな文化的背景を持つ人々の姿について紹介されていました。

○玉井委員

4社ともそれぞれに紹介されている内容には特徴がありますね。中でも、帝国では、「未来に向けて」というコラムの中で、現代的な課題の解決に向けて、環境・防災・共生の視点で解説されていて、生徒にとって分かりやすいと思いました。

調査員からも帝国では、随所に「共生」というコラムがあり、人種差別や少数民族について学習しやすい内容となっていると報告がありました。

○高須教育長

他の観点について、何か御意見ございませんか。

はい、秋元委員。

○秋元委員

補充的な学習について、どの教科書もまとめのページに学習した用語をチェックするコーナーが設けられており、学習した内容を習得できるように工夫されています。

○真野委員

教出では、まとめのページだけでなく、まとめの前に「地域から世界を考えよう」や、「現代日本の課題を考えよう」が設けられており、視点を変えて学習内容を捉えなおす工夫があります。視点を変えることで、学習内容をより深く理解できると思いました。

○坂本委員

学習内容をより深く理解するために、帝国や日文では写真を交えた、学習内容がより深く理解できるようなコラムが設けられていますし、東書では、写真だけでなくイラストも交えた「地理にアクセス」が設けられています。

教出では、学習内容から興味や関心を広げていくような「地理の窓」が設けられています。写真やイラストを用いることで、学習内容をより深く理解する助けになるとともに、生徒は興味関心を持って学習できるのではないかと思います。

○高須教育長

生徒が学習に興味関心を持つことは大切だと思います。加えて、今日の授業で何を学習するのか課題意識を持って学習に向かうこともとても大切だと思いますが、その点についてはいかがでしょうか。

はい、秋元委員。

○秋元委員

どの教科書も本文が中央、資料が周りというようにページが配置されていて、見開きごとに学習課題が明記されています。そのことにより、生徒が課題意識を持ち、学習に取り組めると思います。

○玉井委員

課題意識を持つことはとても大切ですね。

そういった点から考えると、教科書で学んだことを自分のこととして、課題意識を持つことも大切だと思います。

「地域の在り方」の学習では、それぞれが違った地域を扱っています。東書は宮崎、教出は東京、帝国、日文は京都をあげています。自分たちが住んでいる近くの地域のことの方が、より学習内容を身近に感じることができるのではないかと思います。この点については、帝国か日文が良いと思います。

○藤田教育長職務代理者

私も、学んだことを自分のこととして課題意識を持つことは大切だと思います。

帝国では、「節の学習を振り返ろう」で、整理・説明・考えるの3つのステップが設けられており、最後のステップは「持続可能な社会に向けて考えよう」になっています。その中の「私たちとの関わり」にあるように、学びを自分の生活につなげる視点は大切だと思います。

○高須教育長

そろそろまとめたいと思います。

これまでの話の中でも、帝国の名前が多く出てきていたように思います。皆さんの御意見を考えると、今回は帝国を採択することが適当でないかと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○高須教育長

御異議なしと認めます。よって地理は、帝国書院を採択することに決めます。

次に、種目「歴史」について、協議してまいりたいと思います。現行は東京書籍を使用しております。発行者は全部で7社です。

それでは検討いたします。御意見をお願いいたします。

はい、玉井委員。

○玉井委員

各社とも、歴史の大きな流れが捉えやすく、また、各章の最初に様々な資料を示し、その時代の特色が捉えやすいようになっています。

また、各章の最後には、まとめのページを設定して、その章で学んだ基本的な事項を確認したりまとめたりするようになっています。そして、自分の言葉で説明したり、仲間と対話したりするといった言語活動も設定しています。

○真野委員

言語活動という点で言うと、東書は、話し合い活動の課題をどこよりも多く設定しています。話し合い活動を重視していることが見て取れます。

○坂本委員

各社とも、見開き2ページを1時間で学習する構成としており、見やすくレイア

ウトされています。

○藤田教育長職務代理者

各社とも、写真、挿絵、図など人権の取り扱いに配慮されており、フォントや配色にも、ユニバーサルデザインの観点を取り入れるなど、どの生徒も学びやすい紙面づくりをされていると感じました。

○秋元委員

私も、各社とも、人権尊重の観点において配慮されていて、生徒が認識を深められると感じました。その中でも育鵬社は、各単元の最後に「なでしこ日本史」として各時代で重要な役割を果たしてきた女性を各単元後に取り上げているのは特徴的です。

○高須教育長

それでは他の観点でも考えていきたいと思いますが、皆さんいかがでしょうか。

はい、真野委員。

○真野委員

日文は、年表資料の多さが特徴的です。年表を見ると時代の流れがよく分かります。

○秋元委員

学び舎では、大きな世界地図にテーマに沿った資料を配置していることが、帝国では、「タイムトラベル」としてイラストの内容を本文と関連させているのが、特徴的でした。

○高須教育長

では、補充的な学習・発展的な学習という観点ではいかがでしょうか。

はい、坂本委員。

○坂本委員

多くの発行者が、二次元コードやインターネットを使って、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができるようになっていました。

帝国と山川は、NHK for Schoolにつながり、豊富なコンテンツを観ることができま

す。教出は、文化庁など、専門的なサイトに接続されるので、より深く学べます。

その上で、特に私が良いと思ったのは、日文と東書です。日文は、ワークシートが豊富でしたので、先生方にとって、使いやすいと思いました。

次に東書ですが、クイズや練習問題などの生徒の興味を引くコンテンツがあります。また、他分野・他教科とのリンクが充実していて、生徒の学びがつながっていく印象を受けました。

○高須教育長

各社とも工夫があって甲乙つけがたいですが、ここで何社かに絞って、議論できればと思うのですが、いかがでしょうか。

はい、玉井委員。

○玉井委員

歴史的な見方・考え方を働かせるための手立ても各社とも意識されていると感じます。特に、東書と日文では、生徒自身が意識的に見方・考え方を働かせられるように、マークをつけているのが良いと思いました。そうすることで、生徒自身が、どんな見方・考え方を働かせるのかを意識しながら学習できると思います。

○高須教育長

今、玉井委員の方から東書、日文の2社をあげていただきました。

これまでも、その2社の特色がよく話題に上がっていますね。

東書と日文に絞って議論していくということではよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○高須教育長

それでは、東書、日文について、更に御意見がありましたら、お願いいたします。

はい、藤田教育長職務代理者。

○藤田教育長職務代理者

まとめて目に留まったのは、日文の巻末にある「『歴史との対話』を未来に活かす」という特設ページです。

現代社会における課題の解決に向けて、どのように考えていけばよいのかについて、災害、政治参加、世界平和の3つの課題例を紹介し、生徒が段階を追って自分の考えを持つことができるようにしています。これは、そうした課題に対して、主体的に関わる姿勢につながると思いました。

○真野委員

東書では、索引に掲載されている歴史的事項の数が多いところが特色でした。重要な歴史用語が一目で分かり、復習に活用することで学習内容の定着を図ることができます。これは7社の中では、東書だけの特色であると思います。

○藤田教育長職務代理者

索引で言うと、先ほども紹介しました日文の巻末にある「『歴史との対話』を未来に活かす」が良いと思います。

ここでは、索引の活用を促しており、東書のものとはまた違った特徴ですが、こちらも7社の中では、日文だけの特色だったと思います。

○玉井委員

どのように生徒にアウトプットさせるか、両社、工夫を凝らしているように感じました。

日文は、各章のまとめに、時代の特色をとらえる課題学習を示す「アクティビティ」を設けています。ですが、私が注目したのは、東書のまとめにあるチャート図です。これは、アウトプットという点で、とても良いのではないかと思います。他社でも紹介しているところはありませんでしたが、東書は扱われている種類も豊富でした

し、チャート図を用いることで、生徒が自分なりの考えを持ち、説明・議論できるようにしています。

これらのチャート図は、書いて終わりではなく、「みんなでチャレンジ」と関連させて、意見交換や発表につなげているところも工夫されている点だと考えます。

○藤田教育長職務代理者

私は日文が良いと思っていましたが、今の玉井委員のお話を聞いて、学んだことを整理し、意見交換を通して、自分の考えをしっかりと持つことが大事だと思いましたので日文より東書がより良いのではないかと思いました。

○秋元委員

私も、各社、工夫されていると思いますが、これまでの皆さんのお話を聞いてみると、東書が適しているのではないかと思います。

○高須教育長

皆さんの意見を集約すると、東書が良いというお声が多いように思います。

それでは、今回は、東書を採択するというところで、御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○高須教育長

御異議なしと認めます。よって歴史は、東京書籍を採択することに決めます。

次に、種目「公民」について、協議してまいりたいと思います。現行は日本文教出版を使用しております。発行者は全部で6社です。

それでは、検討に入りたいと思います。

皆さんの御意見をお聞きします。

はい、真野委員。

○真野委員

各社とも、生徒たちが、社会的事象の意味や特徴を多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりすることができるように工夫されていました。

○藤田教育長職務代理者

日文では編ごとに、東書、教出、帝国、自由社、育鵬社では章ごとに設定された課題を解決することを通して、社会的事象に関する情報を調べ、まとめる技能を身に付けられるようになっていると思いました。

○玉井委員

組織・配列に関してですが、各社とも、現代社会と生活のかかわりを導入として、学習を進められるようになっていました。

○高須教育長

教科書の構成については、いかがでしょうか。

はい、秋元委員。

○秋元委員

各社とも、見開きの中央に本文が記載されており、その周りに資料となる写真や図表が配置されていました。

○真野委員

どの教科書も、地理的分野や歴史的分野との関連を意識して作られており、現代社会の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するように生徒自身が、考えを理論的に説明したり、立場・根拠を明確にして議論したりできる工夫も随所に見られました。

○高須教育長

では、生徒にとっての、見やすさや分かりやすさ、内容の程度といったところは、いかがでしょうか。

はい、坂本委員。

○坂本委員

生徒の発達段階に適した文章の記述や分量となっており、重要語句については太字で示されている点も、各社共通しており、分かりやすいと思いました。

○秋元委員

写真・挿絵・図、表などの資料について、本文の内容に関連付けられた、効果的な資料が多く用いられ、視覚的に分かりやすく作られていると感じました。

○高須教育長

では、少し視点を変えて、本市の目指す「考える力」の育成にもつながる議論したり、説明したりする言語活動について、いかがでしょうか。

はい、玉井委員。

○玉井委員

教出では「公民の技」というコーナーで、個人やグループでの活動を通じて、公民の学習で身につけたい力を養うことができるよう表現活動を多く取り入れていました。

それから、育鵬社には、「スキルアップ」というコーナーで、ロールプレイなどを通して、公民の基礎的な技能を身に着けられる内容もありました。

○藤田教育長職務代理者

東書では「みんなでチャレンジ」というコーナーが設けられ、学んだ知識を生かしてグループで話し合わせる活動を多く設けていました。「市長になって条例を作ろう」や「コンビニの経営者になってみよう」という部分は生徒にとって興味を抱きやすい工夫だと思います。

○真野委員

帝国も「アクティブ公民」「技能をみがく」というコーナーで、ロールプレイなどを取り入れていました。

日文は「アクティビティ」「公民+α」「明日に向かって」という3つのコーナーを通して言語活動が多く取り入れられ、思考力・判断力・表現力や課題を探究する

力を育成する学習展開となるよう、工夫されていました。

○高須教育長

他の観点では、いかがでしょうか。

はい、秋元委員。

○秋元委員

社会や生活との関わりについてですが、各社、生徒にとって、身近な題材を多く取り上げ、工夫されていました。

「対立と合意」や「効率と公正」の学習では、東書、教出、日文では、学校生活と社会に関わる、双方の事例が挙げられていました。

特に、日文では、合唱コンクールの練習スケジュールについてや、そうじ当番を決める時等の学校生活の事例から、レジの並び方やごみ置き場の決定等の社会生活に関する事例まで、数多く挙げており、生徒の興味関心を引く工夫が見られ、とても良いと思いました。

○坂本委員

社会との関連で言うと、選挙年齢の引き下げに関する扱いも重要だと思います。

その点で言うと、東書ではその扱いが多く、生徒の理解を助け、考えを深めるといふ点では、写真や図を多く取り扱っている日文が良かったです。

両社とも、生徒にとって近い将来の視点から、考えられるようになっていました。

○高須教育長

そろそろまとめていきたいと思います。

皆さんの話を聞いていると、東書、教出、日文の評価が高いように思うのですが、この3社に絞って進めてもよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○高須教育長

では、3社に関して御意見をお願いいたします。

はい、秋元委員。

○秋元委員

3社とも、まとめのページなどで、学習した用語を自分の言葉で説明させる機会を設け、学習内容を習得できるよう、工夫されていると思いました。

○玉井委員

東書は「Dマーク」、教出は「まなびリンク」、日文は「二次元コード」から、ウェブサイト上の情報を活用できるようになっていました。

各社、情報量が豊富で、家庭学習を含め、活用の幅が広がると思いました。

○藤田教育長職務代理者

人権の取り扱いについてですが、発展する科学技術に関する、人権の取り扱いも大事な観点だと思います。

東書と日文では、「科学技術と発展」として、遺伝子に関する研究を例に挙げな

がら、その人権保障に関して、生徒たちが考えられるように配慮されていました。

○坂本委員

同じく、人権の取り扱いに関してですが、日文では、バリアフリー社会の実現のための事例として、堺市などの身近な地域の事例が、取り上げられていました。寝屋川の子供たちにとって、同じ大阪府内の事例だと、身近に感じ、興味を持って学習できると思います。また、実際に、教科書で点字に触れられるようになっている工夫も良かったです。

○真野委員

他の種目でもありましたが、SDGsの取り扱いも大事な観点だと思います。

各社、取り扱いはありましたが、私は日文が印象的でした。

日文では、巻頭の見開き2ページを使って、17の目標を示し、具体的な写真を掲載しながら事例を紹介するとともに、関連する内容を様々な所で取り上げ、教科書全体を通して、SDGsについて考えられるようになっているところが、良かったと思います。

○高須教育長

これまでの皆さんのお話を伺っていると、日文の名前が多く挙がっていたように思います。公民は日文が適しているということで、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○高須教育長

御異議なしと認めます。よって公民は、日本文教出版を採択することに決めます。

次に、種目「地図」について、協議してまいりたいと思います。現行は帝国書院を使用しております。発行者は全部で2社です。

御意見がありましたら、お願いいたします。

はい、藤田教育長職務代理人。

○藤田教育長職務代理人

各社それぞれが、創意・工夫のある教科書を作成しています。選定委員会からの答申、調査員の報告書、学校の所見等を見ますと、東書、帝国ともに、全ての観点において特色が見られます。

○玉井委員

私も、2社ともに、創意・工夫のある教科書を作成していると思います。

○高須教育長

では、東書、帝国の2社を観点ごとに比較しながら検討を進めます。

まず、目標や内容の取扱いについて御意見をいただきます。

はい、真野委員。

○真野委員

各社とも、日本全図、日本地域図、世界全図、世界大陸全図、世界地域図が取り扱われており、地図の理解に必要な資料が取り上げられています。

○高須教育長

では、人権の取扱いについてはいかがでしょうか。

はい、坂本委員。

○坂本委員

東書、帝国ともに、人権尊重の観点から、基本となる地図、文章、写真、挿絵、図、資料等が適切に取り上げられています。

○玉井委員

2社ともに、すべての生徒にとって使いやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色などが配慮されています。

○秋元委員

東書は、地図の色味が優しく、帝国は、教科書が大きい分、文字が見やすいです。

○高須教育長

大きくなった分、重くはないでしょうか。

はい、秋元委員。

○秋元委員

実際に持ってみたのですが、重さは特に気になりませんでした。

帝国は印刷が鮮明で、誰にでも見やすいよう、意識されているように感じます。

○高須教育長

社会科では、今日的な課題として、環境問題がテーマに取り上げられていますが、この点についてはいかがでしょうか。

はい、玉井委員。

○玉井委員

東書、帝国ともに、SDGsの観点に基づいた資料が豊富に掲載されています。

○坂本委員

東書では、巻頭でSDGsの特集をし、課題の理解と実現に向けて何ができるかを生徒自らが考えられるように工夫されています。

○高須教育長

では、内容の程度や組織・配列については、各社どのような特徴があったのか伺いたいと思います。

はい、藤田教育長職務代理者。

○藤田教育長職務代理者

東書、帝国ともに、各分野の学習に活用できるよう、様々な資料を取り上げています。

○真野委員

帝国では、自然災害を扱うページで、日本近辺のプレートの境界を示すなど、理科の学習内容と関連づけることを意識したものとなっているように思います。

○高須教育長

先ほどは環境問題を取り上げましたが、防災教育については、各社どのような特徴があったか伺いたいと思います。

はい、藤田教育長職務代理人。

○藤田教育長職務代理人

東書、帝国ともに、防災・安全関係の資料を取り入れることで、生徒の防災意識を高めるような工夫がされています。

特に、帝国では、「地図活用」において、作業的・体験的な学習活動の例を示し、主体的な学習が進められるように配慮されていると思います。

○玉井委員

帝国は、地形図とハザードマップを並べて示し、浸水の予想範囲と避難所の位置を見ながら、生徒自らが実際に避難する場所を考えるなど、主体的な学びを促す工夫がなされています。

○高須教育長

各社ともに、環境教育や防災教育など、今日的な課題についても、社会科の目標に準拠したつくりになっています。補充的な学習・発展的な学習についてはいかがでしょうか。

はい、坂本委員。

○坂本委員

東書、帝国ともに、社会科の学習内容と関連付けながら、補充的な学習や発展的な学習に活用できるよう配慮されています。

○真野委員

東書では、日本の人口問題のページにおいて、資料の整理と資料の読み取りの力をつけることができるように「スキルアップ」のコーナーが用意されています。

○高須教育長

2社ともに、ICT機器を活用した学習としてQRコードを導入しているように思います。使いやすさなどについてはいかがでしょうか。御意見をお願いいたします。

はい、坂本委員。

○坂本委員

東書は、「Dマーク」があるページで白地図のダウンロードや地理院の地図情報へのリンクが掲載されているなど、補充的な学習が行えるような工夫がなされています。

○真野委員

帝国は「二次元コード」から動画や衛星画像、統計資料やクイズ、解答など様々なツールにアクセスし、発展的な学習が行えるように工夫されています。家庭学習の際に活用しやすい内容だと思います。

○秋元委員

帝国の「二次元コード」は、州や地方ごとに掲載されており、活用しやすいもの

になっています。

○高須教育長

では、そろそろまとめていきたいと思います。

東書と帝国、それぞれに良いところがありますが、皆さんいかがでしょうか。

はい、藤田教育長職務代理人。

○藤田教育長職務代理人

全体的なバランスを考えると、様々な内容が豊富に紹介されている帝国が良いと思います。

○玉井委員

東書も良いと思いますが、帝国は地図や文字が大きく、必要な情報をわかりやすく伝えていると思います。

○秋元委員

私も、生徒の親しみやすさの面でも帝国を推薦します。

○坂本委員

帝国の教科書に載せられているイラストや写真なども、シンプルで見やすいです。

○高須教育長

それでは、地図の教科書は、帝国を採択するというところで、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○高須教育長

御異議なしと認めます。よって地図は、帝国書院を採択することに決めます。

次に、種目「数学」について、協議してまいりたいと思います。現行は啓林館を使用しております。発行者は全部で7社でございます。

御意見をお願いします。

はい、真野委員。

○真野委員

各社とも、基礎的な概念や原理・法則等を理解して、数学的に解釈したり表現・処理したりする技能が身に付くよう、適切な課題が設定されており、新学習指導要領における、「主体的・対話的で深い学び」を意識した紙面づくりがされていました。

特に、啓林館では、考えを説明したり、他者の考えと自分の考えと比較したりする場面では「説明しよう」、様々な考え方を出し合う場面では「話し合おう」のコーナーを設け、数学的活動の楽しさや数学の良さを実感できるように工夫されているのが特徴的でした。

○玉井委員

自分で問題を発見し、解決していくことも、数学の良さを実感するために、大切なことだと思うのですが、東書、大日本、学図、教出、日文の5社においては、問

題発見・問題解決の流れを提示し、自分の周りの考えをまとめ、問題解決できるように工夫されていました。特に、東書では「深い学び」というページで、具体的な活動が明確に示されているので分かりやすいと思いました。

○藤田教育長職務代理者

数研では、別冊で「探究ノート」が設けられていて、これまでに学習した内容をさらに深める題材が取り上げられています。

教科書で取り上げていた問題を、突き詰めて考えていくような構成になっていて、まさに「深い学び」を追究していくノートだと感じました。ワークシートまで付けられているのが良いと思いました。

○秋元委員

私は、学図のアイデアボードが良いと思いました。

裏表紙に、ホワイトボードマーカーで書いたり消したりでき、問題解決に必要なツールとして活用しやすいのではないかと思います。個人の考察の際や、ペアやグループで考えを出し合う際などに役立つように思いました。

B5サイズで3枚分のページが設けられているのは、使い勝手がいいように思います。図形やグラフなども描くときに、これくらいの十分なスペースがあると書きやすいと思います。

○坂本委員

日文では、巻末に「対話シート」というページがあり、自分の考えを書き、互いの考えを伝え合うために活用することができると思いました。自分や周りの考えをまとめ、問題解決できるように工夫されているのが良いと思います。

また、切り取って、そのままノートに貼りつけられるように、紙のサイズが少し小さめになっているのも、使いやすいと思いました。

○高須教育長

数学の良さを実感できるという意味では、社会とのつながりや、身近なものに関連する題材が取り上げられているといいと思うのですが、その点については、いかがでしょうか。

はい、玉井委員。

○玉井委員

各社とも単元の導入等で、日常生活や社会の事象を基にした題材が扱われていて、数学に興味・関心が持てるように工夫されていました。

東書、大日本では教科横断的な学習ができるように、他教科と関連している箇所を、マークで示しているのは、分かりやすいと思いました。

社会や他教科とのつながりが分かると、数学を学ぶ良さなども感じることができ、興味・関心が高まっていくと感じます。

○真野委員

啓林館は、「みんなで学ぼう編」と、裏表紙を先頭にした「自分から学ぼう編」の

2部構成という他社にはない珍しい構成になっているのですが、その「自分から学ぼう編」において、日常生活や社会、他教科との関連を考えることができる題材がまとまっていて、活用しやすいように感じます。

○藤田教育長職務代理者

同じく啓林館の「自分から学ぼう編」では、「入試問題にチャレンジ」というコーナーが設けられていて、過去の入試問題に触れることができます。出題都道府県名、出題年度も併せて記載されています。また、全学年に設けられていて、中学1年生から入試を意識できるような構成になっているのが良いと思います。

○高須教育長

各社とも工夫されていることがよく分かりました。

ところで、各社ともにデジタルコンテンツを利用できるように、二次元コードを掲載していますが、そのあたりについては、いかがでしょうか。

はい、坂本委員。

○坂本委員

デジタルコンテンツの内容については、各社とも学習に役立つ内容を掲載していましたがコンテンツ数で言いますと、啓林館と数研が、非常に多く掲載されていました。やはり、たくさんあると、指導の際の手助けになるだけでなく家庭学習する際などにも、有効ではないかと思います。

○秋元委員

東書は、デジタルコンテンツが教科書のどの部分で取り上げているのかが一覧でまとめられています。調べたいときや知りたいときにどんなコンテンツがあるか一目でわかるので、活用しやすいように思いました。

○高須教育長

そろそろまとめていきたいと思います。

皆さんの話を聞いていると、東書、啓林館の評価が高いように思うのですが、この2社に絞って進めてもよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○高須教育長

それでは、御意見をお願いします。

はい、玉井委員。

○玉井委員

数学は、特に小学校の算数から学びを含めた積み重ねが重要になる教科だと思いますが、両社とも、振り返りが必要な場面では、既習事項が確認できるように工夫されていました。

私は、東書が、目次に単元とのつながりのある既習事項を掲載しており、巻末にも「学びのつながり」として算数の内容を含めた一覧を掲載していて、分かりやすいと思いました。

○藤田教育長職務代理者

算数とのつながりと言うと、啓林館は、中学校1年生の教科書において、小学校の学びを振り返ることができるよう、工夫されています。6ページにわたり、練習問題を解かせながら、ポイントを押さえて、学び直しができるよう工夫されています。啓林館の方が、小学校との接続を丁寧に扱っているように感じました。

○真野委員

少し観点は変わりますが、本市の目指す子ども像である「考える力を身に付けたたくましく生き抜く子」を育成していくためには、子供たちに思考を促すとともに、学びをうまくサポートしてくれる教科書が良いと思います。具体的にお示ししたいのですが、よろしいでしょうか。

○高須教育長

結構です。どの教科書ですか。

○真野委員

啓林館1年「自分から学ぼう編」35ページを御覧ください。併せて、東書1年259ページも御覧ください。

○高須教育長

事務局、お願いします。

○真野委員

東書と啓林館の地震を題材としたページを見ていただいておりますが、啓林館の方は2ページにわたって、丁寧に紙面が作られています。学習活動をステップ1からステップ3へと順に導いてくれています。

○坂本委員

確かに分かりやすいですね。

東書もよく工夫された教科書だと思いますが、私も、生徒が主体的に学べるように「自分から学ぼう編」を配置している啓林館の方が良いように思います。

○秋元委員

私も啓林館が良いように思います。

子供たちが自主学習する際、「自分から学ぼう編」に取り組めばいいということがわかるので、2部構成になっていることが使いやすく良いと思います。

○玉井委員

確かに、皆さんの御意見を伺っていると、啓林館も良いと感じました。

○藤田教育長職務代理者

両社とも、小学校とのつながりに配慮されていますが、特に、学習における取り扱いが丁寧であることや、子供たちが主体的に学ぶことができるような工夫がなされている点において、啓林館が適しているように思います。

○秋元委員

啓林館のデジタルコンテンツの中にはプログラミングを体験できる内容が入って

います。プログラミング的思考を育成する意味でも活用しやすいように感じました。

○高須教育長

実際に教科書を見たり、今までの御意見を伺ったりしていますと、啓林館が適しているという声が多いように思います。

数学の教科書は、啓林館ということでいかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○高須教育長

御異議なしと認めます。よって数学は、啓林館を採択することに決めます。

次に、種目「理科」について、協議してまいりたいと思います。現行は啓林館を使用しております。発行者は全部で5社です。

御意見はございませんか。

はい、坂本委員。

○坂本委員

発行者5社について、選定委員会からの答申、調査員の報告書、各学校からの所見等を研究調査いたしました。目標・内容の取扱いについては、各社それぞれ適切な内容を取り扱っていました。

○真野委員

各社ともに、自然から問題を発見し、観察・実験を通して問題解決をしていくことで、自然への理解や観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けられる内容が取りあげられています。

○藤田教育長職務代理者

生徒たちの科学的に探究する力を養う上で適切な内容となっている印象を受けます。

○高須教育長

目標や内容の取扱いについては、各社ともに適切な内容を取り扱っているとのことですが、人権、自然環境への配慮・防災、安全への配慮についての取扱いはいかがでしょう。

はい、秋元委員。

○秋元委員

安全への配慮についても、各社ともに注意を促すマークや赤文字で示す工夫をするなど、適切に扱われています。例えば、東書と啓林館は、怪我ややけどの危険を示すマークなどで、具体的に注意すべき行動について示し、危険を回避できるよう配慮されていました。

○藤田教育長職務代理者

環境保全や防災についても、各社ともにコラム等で取り上げるなどの取扱いがされておりました。

○真野委員

特に啓林館は、環境保全や防災について多く取り扱っている印象を受けます。

○高須教育長

それでは、教科書の内容の程度や組織・配列についてはいかがでしょうか。

はい、真野委員。

○真野委員

配列に関しまして、各社、重要な語句については、本文中で太字にする工夫をしていますね。特に教出は太赤字にして強調しています。

○玉井委員

東書、大日本、教出、啓林館の4社については、単元末に重要語句をまとめています。

○秋元委員

生徒たちにとっては、学習をする際にわかりやすく活用しやすい配慮となっています。

○坂本委員

各社巻頭にそれぞれ問題解決までの過程を示している点が、配慮されていると感じました。

○高須教育長

それは具体的に言うと、どういうことですか。

○坂本委員

問題を主体的に見つけ、予想を元に実験や観察を行い、結果をまとめ、考察するという過程や学習の進め方を、最初に示しているところが問題解決に必要な力を養うための配慮がされていると感じました。

○高須教育長

問題解決までの過程について、特に工夫をしている教科書はありますか。

はい、玉井委員。

○玉井委員

各社、問題解決までの過程を7～9段階に分けて、各単元を構成しています。その中でも特に東書では、巻頭に問題解決までの過程を示すことに加え、探究の流れを、見開きの左下に示していて、分かりやすいです。

○藤田教育長職務代理者

生徒たちにとって、自分が現在どこの過程にいるのか分かりやすい工夫がされていると思いました。

○秋元委員

問題解決までの過程において、各社、対話的な活動を取り入れています。その中でも特に学図では、仮説を立てる段階で、先生のキャラクターが話し合いを促すなどの工夫をしています。

○高須教育長

ほかに御意見はございませんか。

はい、坂本委員。

○坂本委員

各社ともに写真や図を配列していますが、啓林館においては写真が大きく分かりやすく、数も多いように感じます。

○高須教育長

具体的にいうと、教科書の何ページに見られるでしょうか。

○坂本委員

随所に見られますが、例えば、3年生の教科書の60ページ・61ページの見開きで掲載されている、銀河系の様子を示す図や写真は顕著ではないでしょうか。

○高須教育長

事務局、そのページを示していただけますか。

○真野委員

確かに、実際に目で見るのが難しい星雲や星団の写真が多く掲載されているので、きっと生徒たちの興味を引き付けるのではないかと思いますね。

○藤田教育長職務代理者

視覚的に捉え、イメージを膨らませることで、学習に対して主体的に取り組む姿勢を養うことにつながると思います。

○秋元委員

他の教科書でも、この分野については多くの写真や図を取り扱っていますが、啓林館はワイド版の特性を生かし、ダイナミックな写真が多いように感じます。

○高須教育長

その他、各社において、創意・工夫をされているポイントはありますか。

はい、玉井委員。

○玉井委員

ウェブサイトで学習に役立つ情報を見ることができるよう、各社取り扱っているのですが、東書、大日本、教出が巻頭に配置されている二次元コードやURLから閲覧できるようになっています。また、学図と啓林館については、各ページに配置されている二次元コードを読み込むことで閲覧できるようになっています。

○秋元委員

学習内容に関係のある動画などのデジタルコンテンツを簡単に利用することができ、授業での活用や生徒が家庭学習をする際には、活用しやすいのではないのでしょうか。

○高須教育長

そろそろ、まとめていきたいと思いますが、ほかに御意見はございませんか。

はい、真野委員。

○真野委員

私は啓林館の資料の豊富さは大きな特徴だと感じます。探求の過程で、主体的に取り組む姿勢を生徒たちに養う上で、生徒たちの興味・関心を引き付けられるような資料が、多く配置されていると感じます。

○藤田教育長職務代理者

確かに、先ほどの天体の分野における写真や図の紹介からもその資料の豊富さは伝わってきます。

○高須教育長

様々な意見が出てまいりましたが、そろそろ結論を出したいと思います。これまでの話の中でも、啓林館の名前が多く出てきていたように思いますが、いかがでしょうか。

はい、玉井委員。

○玉井委員

各社ともに特徴的な部分があると思いますが、今までの話を総合して考えると、理科は啓林館が適当ではないかと思えます。

○秋元委員

私も、啓林館はバランスよく作られていると思います。

○高須教育長

では、理科の教科書は啓林館を採択するというので、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○高須教育長

御異議なしと認めます。よって理科は、啓林館を採択することに決めます。

次に、種目「音楽一般」について、協議してまいりたいと思います。現行は教育芸術社を使用しております。発行者は全部で2社です。

委員の皆さんから、御意見をお願いします。

はい、藤田教育長職務代理者。

○藤田教育長職務代理者

両社とも、生徒の発達段階を考慮した内容となっていると思います。

〔共通事項〕について、教出は、「学びのユニット」に記され、各教材のねらいとともに、指導のポイントが分かるようになっていました。

教芸は、「学習内容」に記されており、1年間の学びとの関連がまとめられました。見通しを持って学習することができるようになっていくところが素晴らしいと思いました。

○玉井委員

私も見ていて、生徒にも教員にとっても分かりやすい工夫だと思いました。

〔共通事項〕の用語や記号などについても、両社とも、教材のページに大きく示してありました。今回の学習指導要領では、生徒が学習内容を「身に付けることができるよう」指導することが求められ、内容が再構成されています。その点でも、

両社とも、小学校から引き続き丁寧に学べるよう、工夫されていると感じました。

○高須教育長

どちらも見通しを持って、活動ができるような工夫があるということですね。

○真野委員

そのように思います。学習のめあてや活動のポイントについても、両社ともタイトル近くに表示してあり、分かりやすいと思いました。

さらに、教芸では、題材名の下に目標にせまる具体的な学習活動も示されており、單元ごとの学習内容が明確です。生徒がより見通しをもって取り組めるのではないかと思います。

○高須教育長

歌唱・創作・鑑賞の領域・分野ではいかがですか。

はい、玉井委員。

○玉井委員

歌唱については、両社とも、段階的に取り上げられ、学びが深まるように配列されていました。

○秋元委員

創作については、どちらの教科書も音楽づくり、リズムアンサンブルづくりを大事にされていると思いました。

どちらもワークシートに考えをまとめ、発表したり交流したりすることで、協働的な活動が展開できるように工夫されています。

○坂本委員

鑑賞については、教出が、鑑賞教材でも歌唱と関連させて学習し、伝統音楽を身近に感じる工夫をしていました。鑑賞のページを見ると、話し合ったり感じたことを記録したりする欄を様々なところに設けてあり、充実していると思いました。

○藤田教育長職務代理者

少し、旋律づくりのページを見ていただきたいと思いますが、準備いただけますか。

教出1年の32ページ、教芸1年の22ページです。

○高須教育長

事務局、お願いします。

○藤田教育長職務代理者

先程、秋元委員がおっしゃった創作の領域ですが、教芸では、17ページのリズムチャレンジというページで、ゲーム形式でリズムを作成し、22ページではそのリズムを用いて、学習が進んでいきます。ワークシートを見ると、拍を感じるマスが1年生にとっては教芸の方が分かりやすいと思いました。

○坂本委員

教出も手順が示されており、音楽的な見方・考え方を働かせながら、学習できる

ように工夫されていますが、教芸を見ると、考えるポイントがキャラクターの吹き出しで細かく提示されていて、生徒にとって取り組みやすく感じます。

○秋元委員

教出は、この1年生で、日本語の抑揚を生かした旋律をつくり、2・3年生下では、CMソングを作ろうという課題になります。

段階的な学びというところで、生徒が楽しんで取り組めるよう工夫されていると思いましたが、課題の取り組みやすさを見ると、教芸もよいですね。

○真野委員

教芸は、他にも、指揮者の山田和樹さんや、民謡歌手の伊藤多喜男さんなど、「演奏者からのアドバイス」として教材に関わりのある人の声を多く取り上げられていました。生徒が親近感を持って取り組めると思いました。

○高須教育長

そろそろまとめていきたいと思います。

今までの意見からすると、教芸が適しているという声が多いと感じますが、いかがでしょうか。

はい、玉井委員。

○玉井委員

生徒が音楽に親しみやすいというところで考えますと、私も教芸の方が良いと思いました。

○高須教育長

それでは、音楽一般の教科書は教芸を採択するという事で御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○高須教育長

御異議なしと認めます。よって音楽一般は、教育芸術社を採択することに決めます。

次に、種目「音楽器楽」について、協議してまいりたいと思います。現行は教育芸術社を使用しております。発行者は全部で2社です。

御意見をお願いします。

はい、藤田教育長職務代理者。

○藤田教育長職務代理者

両社とも、学習する教材や楽器について、基礎的な知識や奏法を身に付け、工夫を生かした音楽表現ができるように配慮されていますし、生活や社会の中の音や音楽について考える教材が、幅広く取り入れられていると思いました。

○秋元委員

教芸では、「アンサンブルセミナー」という項目を冒頭に設けることで、基礎・基本から音楽表現へとつながるよう系統的に配列されているところが良いと思いま

した。

○真野委員

教出では、まず小学校でも扱うリコーダーを扱い、管楽器、弦楽器等へと順に基礎的な知識や奏法が身に付けられるようにまとめられていました。

○坂本委員

基礎からの段階的な学習という観点で申し上げますと、教出は「Let's Play」で、初級から中級向けの合奏を指導し、その後「Let's Try」で、より発展的な内容の合奏が学べるように工夫されているのが印象的でした。

○玉井委員

教芸では、アンサンブル教材で、楽器の種類やリズム伴奏が工夫できるように、配慮がされていました。

○高須教育長

両社とも、生徒の発達段階を考慮し、段階的な指導ができるようになっているということだと思います。

では、学習指導要領の観点から見た、両社の工夫についてはいかがでしょうか。

はい、真野委員。

○真野委員

教芸では、目次のあとに、学習指導要領に示された三つの資質・能力とそれに対応する学習内容や教材を示したページが掲載されていて、非常に分かりやすく感じました。

○藤田教育長職務代理者

私も同様に、授業の学習内容の関連性を確認するのに活用することができるので、経験の浅い先生方が、学習指導要領に基づいた授業の組み立てに、とても役に立つのではないかと思います。

○玉井委員

私は、各社とも、考えたことを書く欄や創作した音やリズム等を記載する欄を設けて、生徒が互いの見方・考え方を知り、更に言語活動を充実させていくことができるように工夫されているのが印象的でした。

○坂本委員

教芸では、各楽器のコラムで、聴き比べる要素や工夫するポイントが示されていて、音楽の見方・考え方を働かせた学習活動が促されるよう、工夫されていました。

また、「深めよう」で、協働的に学べるアドバイスや例があるのも良いと思いました。

○高須教育長

両社とも、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫されているということだと思います。次に、生徒にとっての親しみやすさという観点では、いかがでしょうか。

はい、真野委員。

○真野委員

両社とも、授業で扱われる楽器について、写真や資料等でわかりやすく解説されていた。また、演奏家からのメッセージも掲載され、楽器に親しみを持つことができると思います。

○秋元委員

これは発展的な学習になるのかもしれませんが、教出は、世界の諸民族の楽器の背景にある文化や伝統、構造について調べる活動を設定する等、よりグローバルに音楽文化に関わることができるような工夫がされていて、生徒の興味関心を高めることにつながるように感じました。

○坂本委員

教芸では、「Challenge!!」で奏法を選択したり、パートを交代したりして、生徒が音楽文化に豊かに関わるように工夫されているのが良いと思いました。

○藤田教育長職務代理者

写真についてですが、教芸では、リコーダーの項に「ジョイントのないリコーダー、あるリコーダー」の写真が載っていたり、ギターの項では、ギターの3種類について、大きな写真を使った説明がされていたりと、各楽器の様々な種類について、知ることができるのも興味深かったです。

○高須教育長

そろそろ、まとめていきたいと思います。これまでの各委員の話を総合すると、教芸を評価する声の方が多かったように思います。

教芸が、より本市の実態に合うのではないかとと思うのですが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○高須教育長

御異議なしと認めます。よって音楽器楽は、教育芸術社を採択することに決めます。

次に、種目「美術」について、協議してまいりたいと思います。現行は光村図書を使用しております。発行者は全部で3社です。

何か御意見はございませんか。

はい、秋元委員。

○秋元委員

各社とも、数多くの写真や作品を取り上げ、色がきれいで、芸術作品や写真を大きく掲載しており、見ただけで楽しい教科書に仕上がっていました。

○玉井委員

日文の1年生の表紙は、フェルメールの絵でした。裏表紙にもありますが、作品の見方や感じ方を広げる鑑賞ができるように原寸大で掲載されており、とても印象

的でした。

○藤田教育長職務代理者

開隆堂と日文では、美術で学んだ力が、社会生活や職業に生かされていることを紹介していました。生徒自身の3年間の学びを振り返り、これからの社会へ豊かな生活を創造することができるよう配慮されていると思いました。

○真野委員

光村では、1日の生活の中で身の回りにあるものや空間などのデザインについて時系列で取り上げるなど、生活と美術の結びつきについて考えられるように配慮されていると思いました。

○坂本委員

少し別の観点になりますが、3社とも映像メディアの活用の注意事項として、肖像権や著作権について明記され人権的配慮がされていると感じました。

○玉井委員

人権の取り扱いに関していうと、開隆堂と日文はSDGsのロゴやポスターを掲載し、誰もが生活しやすい社会のあり方を考えられるようになっていました。

○秋元委員

光村では、今日的な課題である、性の多様性についてや、いじめ防止に関する生徒作品が取り扱われていて、人権尊重の配慮が感じられました。

○高須教育長

各委員から、様々な意見をいただきました。

次に、内容の程度に関しては、いかがでしょうか。

はい、真野委員。

○真野委員

3社とも、日本の伝統文化についての理解も深められるように工夫されていたと思います。開隆堂では、「日本らしさ」を鑑賞の中心として、多く掲載し、日本の文化を系統的に学習できるようになっていました。

○藤田教育長職務代理者

光村では、日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質、日本と諸外国との美術や文化の相違点や共通点に気づくことができるように配慮されていました。また、絵巻物の紹介ページを和紙にして、より作品を身近に感じられる工夫も、良いと思いました。

○高須教育長

学習指導要領との関連でも御意見をいただけたらと思います。

各社、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る内容になっていましたが、その観点からはいかがですか。

はい、坂本委員。

○坂本委員

開隆堂は単元ごとに3つの柱に基づいた目標が示されており、「学習のポイント」を提示し、生徒が造形的な視点を意識して表現や鑑賞に取り組めるようになっていきます。

また、共同制作や友達と関わりながら言語活動を図れるよう工夫されています。

○秋元委員

光村は、「表現」「鑑賞」マークとともに学習のねらいを示しており生徒が造形的な視点を意識して活動できるように配慮されているように思いました。

特に、「みんなの工夫」で生徒の制作過程を詳しく紹介されており、アイデアやヒントを得ることができるので、自身の表現活動の参考になると思いました。

○真野委員

日文も、単元ごとに3つの柱に基づいた目標が示されており、「造形的な視点」マークで具体的な問いを示すことで、考えを言語化したり、他者との対話を通して見方・考え方を広げたりすることができるように工夫されています。

○玉井委員

光村や日文では、道徳や他の教科とのつながりも示されていて、教科横断的な視点で、効果的に指導が行われるように工夫されていました。

○高須教育長

では、用具の取り扱い等についてはいかがでしょうか。

はい、坂本委員。

○坂本委員

3社とも、用具の取り扱いについて具体的に示され、安全に使用できるよう配慮されていると思います。

その中でも、光村が、黄色の帯で注意事項が記載され、実際に生徒が作業する上でわかりやすいと思いました。

○高須教育長

各委員より、御意見をいただきましたが、これまでの話を振り返ると、光村が適しているとの声が多かったように思いますが、いかがでしょうか。

はい、秋元委員。

○秋元委員

光村は、巻末資料なども充実しており、実際に教師が指導をする上でも分かりやすいように思います。

○玉井委員

私も光村が良いと思います。

○高須教育長

それでは、美術の教科書は光村を採択するという事で御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○高須教育長

御異議なしと認めます。よって美術は、光村図書を採択することに決めます。

次は、種目「保健体育」について、協議してまいりたいと思います。現行は東京書籍を使用しております。発行者は全部で4社です。

御意見をお願いします。

はい、坂本委員。

○坂本委員

東書は、デジタルコンテンツの「Dマーク」に動画が多く掲載され、見て・聞いて、学習できるよう配慮されています。

また、大日本は、単元末に「活用して深めよう」、章末に「学びを活かそう」が設けられていて、生活の中でどのように実践していくかを考えられるよう工夫されています。

○玉井委員

大修館は、コラムや事例が多く掲載されて、生徒が興味・関心を持つことができるよう配慮されています。

また、学研は、多くの単元で脚注に、「情報サプリ」や「探求」が記載され、学習の補足や発展に役立てることができるよう工夫されています。

○真野委員

編集の違いに着目すると、各社とも学年ごとに編集がされています。

東書のみ、保健編の後に体育編があり、他の3社は、体育編の後に保健編となっています。学習指導要領における保健分野の方が、体育理論の時間数よりも多いことが関係しているのではないかと推察されます。

○高須教育長

次に、観点を変えて人権の取り扱いはいかがでしょう。

はい、秋元委員。

○秋元委員

各社とも、スポーツが、多様な人々を結びつけていることについて伝えられており、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう配慮されていると思いました。

○坂本委員

それ以外にも、東書や学研では、性の多様性について、記載があり、多様な性の在り方を学ぶことができるところが良いと思います。

○高須教育長

そうですね。人権の取り扱いでは、各社とも配慮されて、特徴があるように思います。

その他には、いかがでしょう。

はい、玉井委員。

○玉井委員

各社とも1単位時間を見開き2ページで学習することを基本としていますが、本文などの配置に特色があります。

東書と大修館は、本文を見開き中央に寄せ、両端に資料を配置しています。

また、大日本は本文を左ページ、学研は本文をページ左側に配置しています。

○高須教育長

各社とも特色がありますね。

ほかに御意見はございませんか。

はい、真野委員。

○真野委員

補充的・発展的な学習としては、東書と大修館が良いように思います。

東書の180ページと大修館の178ページを見ていただきたいのですが。

○高須教育長

事務局お願いできますか。

○真野委員

東書では、「キーワードの解説」、大修館でも、「用語解説」として、巻末に重要な言葉の解説が設けられています。生徒が、学習の振り返りを行いやすいように工夫されているように思います。

○藤田教育長職務代理者

私もその点は注目をしていました。

その他にも、この2社は、章末に確認問題などのページがあり、習得状況の確認や整理ができるようになってるのが良いと思います。

○坂本委員

私は、教科横断的な指導ができるように、他教科との関連があることが良いと思います。

その点で、東書では、「他教科」マークを多く取り扱っており、他の教科とつながりを持って学習できる点が素晴らしいと思いました。

○高須教育長

そろそろまとめに入りますが、いかがでしょうか。

はい、真野委員。

○真野委員

私は、全てにおいてバランスが取れていて、他教科とのつながりを多く持つことができる東書が良いと思います。

○秋元委員

私も、章末のまとめや、巻末の解説があり、振り返りをできる東書が良いと思います。

○藤田教育長職務代理者

私も同感で、東書が良いと思います。

○高須教育長

東書という意見がたくさん出ていますが、東書でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○高須教育長

御異議なしと認めます。よって保健体育は、東京書籍を採択することに決めます。

次に、種目「技術」について、協議してまいりたいと思います。現行は東京書籍を使用しております。発行者は全部で3社です。

それでは御意見をお願いいたします。

はい、秋元委員。

○秋元委員

最近の子供たちは、ものづくりの経験が少ない生徒が多い中で、生徒にしっかりとしたイメージを持たせることが理解を助けることにつながると思います。

各社ともに、写真やイラストを多く用いていて、生徒にとっては、作業面での動作などが想像しやすいと感じました。

○玉井委員

ものづくりを学ぶ上で、大切な原理や法則、基礎的な技術の仕組みが適切に取り上げられていることが、各社ともによく見受けられました。

○藤田教育長職務代理者

各社とも、各内容の最後と巻末に学習のまとめが掲載されていて、より良い生活や持続可能な社会の構築について考えることができる内容だと感じました。

○真野委員

道具・工具を使用することが多い教科であるため、安全面には、特に気を付けないといけないと思います。

各社とも、安全面に気を付けなければならないポイントには、マークをつけて事故防止に留意するように配慮されていました。

○高須教育長

続いて、内容の程度についてはいかがでしょうか。

はい、秋元委員。

○秋元委員

東書では「TECH Lab」で工具を扱う様子を、大きな写真で示していて、とても分かりやすいの良かったです。

材料に線や印をつける「けがき」という作業もイメージしやすいです。

また、ページ下部の「技術の工夫」では、用語解説や技術の工夫が紹介されていて、生徒のより深い理解を促す内容が取り扱われていました。

○坂本委員

開隆堂では、情報を安全に利用できるよう、SNSの利用事例を、「個人情報の保護」「人権・プライバシーの保護」「肖像権の保護」の3つの観点で示していて、

その重要性が、生徒に伝わるように取り扱われているところが良いと思いました。

○玉井委員

教図では、別紙ハンドブックで「基礎的な技能」が参照できるようになっていて、必要なときに見やすいように工夫されています。

また、本文上の重要語句について、太字にするだけでなく、色も変えて示しています。生徒にとっては学習の中で、しっかり意識できるのではないのでしょうか。

○藤田教育長職務代理者

開隆堂では、ページの下部に「豆知識」が掲載されていて、用語解説や技術の工夫が紹介されていて、基礎的な技術が身に付くように工夫されているように思います。

○高須教育長

確かに、各社とも様々な工夫が感じられますね。

ほかに御意見ございますか。

はい、玉井委員。

○玉井委員

東書では、巻末に「プログラミング手帳」が設定されていました。

学習指導要領の改訂により、小学校段階からプログラミング教育が必修化されましたが、生徒の「プログラミング的思考」を育む上で、小学校との接続も意識したつくりとなっており、とても良いと思いました。

○真野委員

教図では、言語活動を促している場面が多く設定されているのが良いと思いました。対話的で深い学びにつながっていくと感じました。

○坂本委員

東書では、学習した内容に関して、知識を深めるための内容や情報を多く追記しており、各編において、考えたり、調べたり、話し合ったりする学習活動を促している場面が多く設定されていることも良いところだと感じました。自主的な活動につながり、深い学びに発展していくと思いました。

○高須教育長

そろそろまとめていきたいのですが、全体の構成についてはいかがでしょうか。

はい、秋元委員。

○秋元委員

東書が、大きな写真を用いたり、配置に工夫がみられ、生徒の興味や関心を高めるような構成になっていると思います。

学習の流れやつながりのイメージが持ちやすいのではないのでしょうか。

○真野委員

同じく東書は、文字と写真、図のバランスが良いと思います。

○藤田教育長職務代理者

各社とも、様々な工夫がありましたが、総合的に考えますと、東書が活用しやすい教科書だと考えます。

○坂本委員

私も、生徒が理解しやすく、興味・関心等に応じた内容がバランスよく記述されている東書が良いと考えます。

○玉井委員

私も東書が良いと思います。

○高須教育長

技術の教科書は、東書を採択するというところで、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○高須教育長

御異議なしと認めます。よって技術は、東京書籍を採択することに決めます。

次に、種目「家庭」について、協議してまいりたいと思います。現行は東京書籍を使用しております。発行者は全部で3社です。

それでは御意見をお願いいたします。

はい、秋元委員。

○秋元委員

各社とも、生活の自立に必要な基礎・基本をしっかりと押さえており、生活で生きる知識や技能を育む内容が取り上げられていました。

また、学習したことを基に、生活の中から課題を設定し、取り組むことができるような内容も取り扱われていました。

○真野委員

各社、より良い生活の実現に向けた工夫が、巻末や各章末に見られました。

例えば、教図では、6つのステップで流れに沿って生徒が自分の課題設定ができるようになっていて、分かりやすかったです。

○藤田教育長職務代理者

生徒が学習を進めるにあたり、各社とも教科書冒頭で「ガイダンス」のページを設け、これからの学習の流れや、生活や社会の関連について掲載されています。生徒が見通しをもって3年間過ごせるよう工夫されていると思いました。

特に、東書と開隆堂では、ガイダンスのページ数も多く、分かりやすいと感じました。

○坂本委員

東書では、随所に「防災マーク」「環境マーク」「伝統文化マーク」が掲載されていました。生活や社会とのつながりを意識して学習に取り組めると感じました。

○高須教育長

今、学んでいることが、どのように社会とつながっていくのか考えることは大切なことだと思います。

では、少し観点を变えて、各社の創意工夫については、いかがでしょうか。

はい、藤田教育長職務代理者。

○藤田教育長職務代理者

各社とも、「話し合ってみよう」「考えてみよう」「やってみよう」など、実践的・体験的な活動を通して、言語活動を行えるよう工夫されていました。

○玉井委員

教図では、重要語句を青色の太字にして強調する工夫が見られました。

○真野委員

東書では、「防災・減災手帳」という巻末付録が用意されており、切り離して活用できるようになっていました。

○秋元委員

調理実習をする上では、食物アレルギーへの対応も大切になりますが、各社とも丁寧に記載されていました。

特に、開隆堂では、調理実習のページに食物アレルギーを含む材料を黄色く強調して表示し、事故が起こらないよう工夫されていました。こうした配慮は、とても大切だと思いました。

○坂本委員

配慮という観点では、各社とも、包丁の取り扱いなど、左利きへの配慮がされていましたが、教図、開隆堂は、箸の持ち方についても掲載しており、細かな配慮が感じられました。

また、実習に関してですが、東書では、調理実習例だけでなく裁縫実習例も豊富に掲載されており、生徒が実習に向かいやすいような配慮を感じました。

○高須教育長

では次に、学習の内容に関わって、御意見をいただけたらと思います。いかがでしょうか。

はい、玉井委員。

○玉井委員

各社とも、文章の記述や分量が生徒の発達段階を考慮した内容になっており、また、専門的な用語については、注釈をつけ、簡潔な表現で解説が補足されています。

東書では、特に生活の中で必要な基礎技能を「いつも確かめよう」のページにまとめ、技能が定着するよう工夫されていました。

○藤田教育長職務代理者

開隆堂の各ページの右上には、学習内容に関わる小さなイラストや写真が掲載され、補充的な学習となるよう工夫されていました。このようなちょっとした工夫が、生徒の心をほっとさせますし、次への興味関心につながっていくと感じました。

○高須教育長

そろそろ結論を出したいと思います。

今までの話を総合しますと、各社とも様々な工夫がされていましたが、東書という意見が多かったように思いますが、いかがでしょうか。

はい、秋元委員。

○秋元委員

各社とも、工夫されていますが、東書が全体的にまとまっていて良いのではないかと思います。

○玉井委員

東書は、基本的なルールやマナーなどに関する内容に、「マナーマーク」が付いていて、人権的な観点についても、工夫されていると感じましたので、東書が良いと思います。

○坂本委員

写真やイラストについても、東書は、調査員の評価が高かったと聞いています。

○高須教育長

それでは、東書の声が多いようですので、家庭の教科書は東書を採用するという
ことで、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○高須教育長

御異議なしと認めます。よって家庭は、東京書籍を採用することに決めます。

次に、種目「英語」について、協議してまいりたいと思います。現行は開隆堂を使用しております。発行者は全部で6社です。

皆さんから、御意見をお願いいたします。

はい、秋元委員。

○秋元委員

今、「生きて使える英語力」というのが課題となっていると思うのですが、どの教科書もしっかりと学びが積み上げられる構成になっています。

○真野委員

各社とも各単元で学んだ音声や語彙、表現、文法等についての知識が身に付く活動や、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身に付く内容となるよう、工夫されております。

その中でも特に、開隆堂、三省堂、光村は、自分の考えを表現する活動を多くのページで取り扱っているように感じました。

○藤田教育長職務代理者

今、真野委員がおっしゃった3社についてですが、生徒が考えを表現する場面を多く取り入れる工夫については、学習の定着にもつながっていくと思います。

○高須教育長

人権の取扱いという点では、いかがでしょうか。

はい、坂本委員。

○坂本委員

各社とも、1年生では、英文が書きやすいように4本線ノートの幅や線種、基準の色使いや英字のフォントの使用も学年に合わせて使い分けているので、どの生徒にとっても学びやすいように配慮されていると感じました。

○高須教育長

扱われている題材に関しては、いかがでしょうか。

はい、玉井委員。

○玉井委員

各社とも、題材がとても豊富で、日常的なことから社会に、そして世界へと、段階を追って学びやすいように工夫されています。様々な題材を扱っているので、英語に興味を持つ生徒が増えるのではないかと思います。

○真野委員

扱われている題材に関してですが、学習指導要領では、「持続可能な社会の創り手」が1つのキーワードとなっていると思うのですが、その点、東書の3年生の教科書の最初には、SDGsが載っており、それぞれの題材がどのようにつながっているか明確になっています。

○高須教育長

真野委員より、学習指導要領の観点からの御意見が出ましたが、来年度からの全面実施に伴い、中学校で指導する内容が増加しますが、その点に関して各社、内容の程度はいかがでしょうか。

はい、坂本委員。

○坂本委員

各社とも、分量や内容の提示の仕方について、生徒の発達段階を考慮しているように感じました。

○秋元委員

その中でも特に、東書や開隆堂は、各単元の初めに新出の言語を使用する場面が、具体的にイラストやマンガ等で示されていました。実際に教科書を見ていただくと分かりやすいと思いますので、東書2年8ページ、開隆堂2年8ページを開いていただけますか。

○高須教育長

事務局、お願いできますか。

○藤田教育長職務代理者

イラストやマンガで導入されているので、生徒が学習に向かいやすそうだと思います。

○高須教育長

今年度から小学校での英語が教科化となり、小中学校の接続がより重要となっていますが、各社、何か創意工夫はありますか。

はい、秋元委員。

○秋元委員

各社とも、1年の冒頭で、小学校で学んだ英語表現を復習できるようになっています。

東書や三省堂では、小学校で触れた単語が使用されている場合は、そのページの下にその旨が記載されていますので、とても分かりやすいと思いました。

○真野委員

小学校でも、多くの語彙や表現を学んできているので、生徒や教員にとっても、分かりやすいですね。

○高須教育長

そのほか、特徴的なものはありますか。

はい、藤田教育長職務代理者。

○藤田教育長職務代理者

教出は「重要構文復習リスト」が巻末にあり、1～3年生で学んだ大切な構文が全部載っています。また、付属している、赤色のマスキングシートもあり、生徒が復習するときにも、とても良いと思いました。

○高須教育長

最初に秋元委員がおっしゃっていた「生きて使える英語力」の育成が、今後一層求められてきます。本市もその一環として、中学生の「プレゼンテーションコンテスト」を実施しておりますが、その点ではいかがでしょうか。

はい、真野委員。

○真野委員

各社とも、目標や内容に踏まえて、教科横断的な視点も含め、効果的な指導ができるよう組織・配列されています。特に開隆堂・啓林館では、日常生活の場面でのやりとりが多く扱われています。

○玉井委員

自分の考えをまとめ、まとめた英語を発表することも大切ですが、即興でのやりとりも重要だと思います。

市のプレゼンテーションコンテストでも、発表後に英語での質疑の時間を設け、即興的なやりとりを行っています。

その意味でも、真野委員がおっしゃったとおり、英語でのやりとりが多く扱われている開隆堂と啓林館は、その力の定着に良いと思います。

○秋元委員

授業で培ってきたやりとりの力を、中学校の英語村や英検の受検の際でも、活用することもできると思いました。その点でも、英語でのやりとりを扱っている箇所が多いのは、良い点だと思います。

○高須教育長

そろそろまとめに入りたいと思います。

皆さんの御意見を聞いていると、東書と開隆堂の評価が高いように思うのですが、この2社に絞って進めてもよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○高須教育長

それでは、2社に関して御意見をお願いします。

はい、秋元委員。

○秋元委員

両社とも、それぞれの単元で学んだことを積み重ね、東書では「Stage Activity」、開隆堂では「Our Project」内で設定されている学期目標に結び付く構成となっていました。既習事項を繰り返し学んだり、活用したりできるようになっており、その点では、どちらも良いと思いました。

○藤田教育長職務代理者

2社とも、細かく活動が設定されており、段階的に取り組めるように工夫されていますが、開隆堂はマッピング等の思考ツールが特に充実していますね。

適宜活動に組み込まれているだけでなく、思考ツールの活用方法を説明するページも設けられています。生徒がまとめた英文を発表する際、考えをまとめたり広げたりしやすくなるのではないかと思います。

○真野委員

今後の授業の在り方ですが、授業等で学んだ英語の知識を、活用を通じて定着させていくことが、今後の英語の授業の基本になると思います。

調査員の報告にもありましたが、開隆堂では、各単元で扱われている題材を、キーワードや写真、イラストを用いて自分の言葉で表現することを、単元内で扱っています。

○坂本委員

単に題材を読んで終わりではなく、題材を通じて学んだ表現や内容を再構築して、再度、自分の言葉で表現する活動は重要だと思います。

この一連のプロセスは、プレゼンテーションに通ずるものがあるのではないのでしょうか。

○秋元委員

各社、全体的に、扱う内容の増加に伴って、とてもボリュームがあるなと思いました。

学びやすさという点では、イラスト等で新出言語を扱っている東書も良いのですが、より具体的なマンガで英語と場面を提示している開隆堂が良いと思います。

○藤田教育長職務代理者

開隆堂は、調査員の報告や答申の中でも、評価が高かったと、私も思います。

○玉井委員

私も、寝屋川市が目指す英語教育の方向性とも合致していて、生徒の英語力が一層伸びていくと思うので、開隆堂が良いと思います。

○坂本委員

本日の議論の中にもありましたが、今後、やりとりの力をいかに身につけさせるかが重点的な取組の1つになると思います。その点で、扱いの多い、開隆堂が良いのではないのでしょうか。

○真野委員

教科書で学んだ題材を再度、自分の言葉で表現する工夫が見られましたが、各単元の中に組み込んでいる点で、開隆堂の方がより扱いやすいように思います。

○高須教育長

様々な観点で議論していただき、各社とも、生徒に英語力を身につけさせるため工夫されているのがわかりました。

その中でも開隆堂という御意見が多いようですが、英語の教科書は、開隆堂を採択するという点で、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○高須教育長

御異議なしと認めます。よって英語は、開隆堂を採択することに決めます。

次に、種目「道徳」について、協議してまいりたいと思います。現行は日本文教出版を使用しております。発行者は全部で7社です。

では、御意見をお願いいたします。

はい、坂本委員。

○坂本委員

道徳の教科化の背景には、いじめの問題や、大きく変化する社会に対応する力の育成が求められています。特に今回は、いじめを取り扱った教材が多かったように思いました。

○玉井委員

答申にも報告がありますが、各社とも、いじめに関する教材を全学年で取り扱っており、発達段階を考慮した内容になっていました。

○藤田教育長職務代理者

いじめの問題で言うと、人権の取扱いも大切な視点だと思います。

答申にもありますが、東書と日文は子どもの権利条約を取り扱っており、世界中の子供たちの人権的な課題について考えることができると思いました。

○真野委員

日科の、性の多様性に関する取り扱いがあったことも印象的でした。

これからの子供たちに、必要な視点であり、教材を通して、共に生きることについての考えを深めることができると感じました。

○高須教育長

では、他の観点についてはいかがでしょうか。

はい、坂本委員。

○坂本委員

東書・教出・光村・日文・学研は、教材の冒頭に、学習のテーマ等が示されていて、生徒が何を学ぶのか、見通しをもって取り組むことができると思います。

生徒にとって、何を考えるかが始めにわかる方が、クラス全体で学びやすいと思います。

○玉井委員

あかつき、日科は、教材の冒頭に、あえて主題や発問を明記しないことで、生徒が主体的に課題意識を持ち、取り組むことができるよう工夫されています。

教師の力量が問われるところかもしれませんが、生徒に考えさせる力がつくのではないかと感じました。

○高須教育長

テーマ等を示す、示さないでは考え方が様々あると思いますが、ほかにはいかがでしょうか。

はい、真野委員。

○真野委員

振り返りに関しては、各社とも、学期末や学年末にページを設け、自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるように工夫されていました。

○坂本委員

補充的な学習・発展的な学習としては、各社とも、教材を補充するページやコーナーが設けられており、また、ほとんどの発行者で、学習に役立つ情報をウェブサイトで見られるようになっていました。

○秋元委員

教科横断的な視点で言うと、光村、日文、あかつきでは、教材に関連する教科等が、巻末の表に示されていました。

その中でも、日文は、内容項目ごとに教材が分けられていて、さらに主題やテーマ、デジタル教材との関連などがまとめられており、とても分かりやすく、活用しやすくなっていました。

○高須教育長

ここまで、各委員より、各社の特徴について御発言いただきました。今お聞きしていると、どの教科書も特徴があり、充実した内容だと言えると思います。

ここからは、少し絞って議論を深めていきたいと思います。今までの話や、選定委員会の答申、調査員の報告等で、評価の高かった発行者について議論をしていく形で進めさせていただきたいと思います。御意見はございますでしょうか。

はい、坂本委員。

○坂本委員

私は、答申の中のすべての観点で、特徴が報告されている東書、日文が良いように思います。

○秋元委員

各社、特徴があり、充実していて悩むところですが、私も坂本委員の言われた2社、日文と東書は評価が高かったように思います。

○玉井委員

調査員からの報告では、東書・日文だけでなく、あかつきも評価が高かったように思います。

○高須教育長

今、東書・日文・あかつきの3社の名前が挙がりましたが、この3社に絞って議論していく形でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○高須教育長

それでは、絞った3社について、さらに御意見がありましたら、よろしくお願ひします。

はい、真野委員。

○真野委員

先ほど、教材の冒頭にテーマ等を設定している発行者と、あえて設定していない発行者があるという話が出ました。寝屋川市では、全ての授業で学習のめあてを設定して進められており、東書・日文のように教材の冒頭にテーマ等が設定されている方が生徒にとって見通しを持って考えやすいと思います。

○藤田教育長職務代理者

教える教師の立場としても、冒頭にテーマが設定されていた方が、授業をしやすくと、調査員の報告がありました。

○坂本委員

寝屋川市においては、教科書付属の「道徳ノート」の有無も重要な視点だと思います。

別冊版としてあるのが、日文・あかつきです。日文は、本冊の1教材につきノート1ページと、書く場所が決まっていて、使いやすい印象があります。また、友達の見解をメモするページがあり、自分の考え以外も残しておくことができます。

あかつきは、別冊ノートにも教材があり、本冊にある教材を補充していて、学びをより深めることができます。

○高須教育長

前回の中学校道徳の教科書採択では、調査員から「経験の浅い教員にとっては、自由な使い方ができるよりは、ある程度発問があり、記述が決められたノートの方が、取り組みやすいのではないか」という声がありました。

そして、これまでの本市の取組を継承していくこともでき、経験の浅い教員が多い中で、授業や評価の質も担保していけるということから、付属の道徳ノートがある教科書が選ばれましたが、今回の道徳ノートについては、いかがでしょうか。

はい、秋元委員。

○秋元委員

私は、やはり付属の道徳ノートがあった方が良くと思います。その中で2社を比べると、日文も使いやすいと思いますが、あかつきの道徳ノートにある、教材も良いと思いました。

本冊の補助教材としての役割もありますが、物語だけでなく、自然との向き合い方なども書かれており、この教材自体でも学習できるものになっていると思います。

○真野委員

私も別冊の道徳ノートを活用すべきだと思います。

その中で、日文の道徳ノートは、ある程度の道筋が示されているにも関わらず、自由な使い方ができる部分を残しているのです、私は日文が活用しやすいと思います。

○玉井委員

調査員からも、今回の日文の道徳ノートは、現行のノート以上に内容が整理され、更に良いものになっていると聞いています。私も、内容も含め、日文が良いかと思っています。

○高須教育長

各委員の話をまとめますと、冒頭のテーマ設定がされていて、かつ活用しやすい別冊の道徳ノートがあるという点で、日文が、本市の子供たちに適しているということになると思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○高須教育長

御異議なしと認めます。よって道徳は、日本文教出版を採択することに決めます。以上、各種目が決定しました。

では、各種目の教科書を確認します。

国語は、光村図書。書写は、東京書籍。地理は、帝国書院。歴史は、東京書籍。公民は、日本文教出版。地図は、帝国書院。数学は、啓林館。理科は、啓林館。音楽一般は、教育芸術社。音楽器楽は、教育芸術社。美術は、光村図書。保健体育は、東京書籍。技術は、東京書籍。家庭は、東京書籍。英語は、開隆堂。道徳は、日本文教出版に決定しました。

以上をもちまして、議案第26号、「令和3年度使用中学校教科用図書の採択について」の審議を終了いたします。

ほかに報告はございませんか。

では、ないようですので、これをもちまして教育委員会臨時会を終了いたします。